

特集 **わたしたちの多様な性**

2~4面 寄稿・永瀬大紀

5面 熊本YWCAの「からふるペース」

6面 CSWとYWCA

7面 戦争・紛争被害者支援募金

The Young Women's
Christian Association

YWCA

6

JUNE
2022

No.768

〈第33総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

www.ywca.or.jp

「わたしらしさ」「あなたらしさ」 認め合える社会へ

わたしたちの性には、無数のグラデーションがある。性は多様なのだ。
最近では、「LGBTQ+」など性の多様性を表す言葉をよく見かける。
一方で、「普通」「当たり前」という既存の枠組みは相変わらず存在し、
わたしを、誰かを、傷つけ、苦しめている。生きづらい社会はもう嫌だ。
みんなが自分らしく生きられる社会のためのヒントを探しに行こう。

日本YWCAは
性的マイノリティの人権を
尊重します

[https://www.ywca.or.jp/pdf/
2021/0601.pdf](https://www.ywca.or.jp/pdf/2021/0601.pdf)



多様なわたし 多様なあなた

永瀬大紀

男でも女でも
なかったら？

先日、知り合いの小学生から「永瀬さんは男？女？」ときかれました。社会でよく知られているのは「女性」と「男性」の二つの性です。もう少し掘り下げていうと、「女性」というのは、身体が女性であり、自身のことを女性と認識している人。また「男性」とは、身体が男性であり、自身のことを男性と認識している人と、捉えられることが多いと思います。

私は、子どもたちに「どちらでもないよ」と正直に伝えました。すると、子どもたちの間で「おとこおんなだ！」という噂が、あつという間に広まりました。私は、子どもたちが、「女性」「男性」という2つの性別を越えて、新たに「おとこおんな」という性の概念を獲得しようとする姿に、ほっこりしたものでした。

また、私が学生の頃は、学校で「思春期になると、異性に関心をもつようになる」と学びました。ここでの異性とは、女性であれば男性、男性であれば女性を示し、男女間の「異性愛」が当たり前のように教えられました。ところが最近、

中学生たちのこんなやりとりを耳にしました。「彼女いるの？」「いないよ」「じゃあ彼氏は？」というのです。私は純粋に、若い人の柔軟性に驚き、「異性愛」という枠組みにとられないコミュニケーションに感心しました。

LGBT……
性の多様性って？

社会の中には、「女性」「男性」という二つの性別、その二つの性の間に生じる「異性愛」という恋愛、そして、そのほかにも多様な性や恋愛のあり方が、存在しています。

現在では、LGBTといった言葉を耳にするようになりました。Lはレズビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシュアル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（生まれた時の身体の性と、自分が認識する性が一致しない人）、これらの頭文字をとった言葉で、性の四つのあり方を示しています。そして、「LGBT」という言葉は、それ以上に、多様な性を包括するような意味合いでも使用されています。

LGBTや性の多様性について学んでいくと、この四つのみならず、さま

さまざまな性のあり方を示す用語に出合います。用語を使用することで概念をまとめやすいですし、他者への意思伝達がいやすくなります。しかし私は、自分の性や相手の性を一つの用語に集約することは難しいと感じています。身体の性、自認する性、好きになる性、表現する性、これらは人それぞれですし、どれか一つが定まると、ほかも同様に定まるというものでもありません。

ちなみに私は、性自認（自分の性をどのように認識しているか）が、男性でも女性でもなく、「自分」です。さらに言うと、私にはすべての人が、同性のように、異性のようにも感じられます。現在の社会では、「女性」「男性」という二元論の考え方が深くあり、「女性」「男性」のどちらかに性を定めないと、生きる上で困ることが多くあります。私自身も、「男性はこちら」「女性はこちら」などと振り分けられるたびに、孤独感を感じたり、「私は？」と疑問に思ったりしてしまいうこともあります。

「普通」「当たり前」
わたしは？ あなたは？

とある公務員の面接試験を受けた時

のことです。性自認が男性でも女性でもない私は、男性用と女性用にはつきり分かれているスーツを着ることにとても抵抗を感じます。当日は、スーツではなく、試験会場の雰囲気合うような私服を着て行きました。会場の受験者はみんなスーツを着用しており、私服は私一人だけでした。スーツの集団に加わって入口に進むと、「本日ここは公務員試験の会場となっております」と、私のみが職員に止められました。「私も試験を受けにきました」と受験票を提示すると、渋々入場を許可されました。

また、会場で、お手洗いにいくこうとして「多目的トイレはありますか？」と職員に尋ねました。すると、「身体障がい者用のトイレは設置しております」と、すっぱり断られました（多目的トイレと聞いたはずなのに……）。私は、歯がゆい気持ちのまま、会場に戻りました。

その職員の念頭には「公務員の面接試験ではスーツを着用するのが当たり前」「トイレは普通、男性用か女性用、それ以外は身体障がい者用」というような枠組みがあったのでしょうか。皆さんは、「普通」「当たり前」といっ

た考え方を、どのように感じますか？

私は、これまで社会で築き上げられてきた、男性／女性という文化や風潮も、大切にしていかなければならないと思います。一方で、これを「普通」「当たり前」と捉え、枠組み化してしまうことによって、取り残されてしまう人がいるのも事実です。このような対応をされるたびに、私は、孤独感・疎外感のようなものを感じてしまいます。

その思い、
すれ違ってるかも？

それでも日本では昔と比較して、LGBTに関する認識は広がっています。支援の輪も広がってきています。

私がとある職場に勤め始めた時のことでした。事前に、担当者にカミングアウト（自分の性自認等について他者に打ち明けること）をして、多目的トイレの利用について相談をしました。担当者は、丁寧に案内してくれました。そして出勤初日、担当者から「心理士にあなたのことをお伝えして、カウンセリングの準備をしておきました」と伝えられました。これもまた、職場の一つの気遣いであったと思います。しかし、私は、多目的トイレの使用についてのみ相談をしたので

あり、カウンセリングについては望んでいませんでした。

こうした自分自身の経験から、社会に広がりつつある「多様な性を尊重しましょう」という考え方が、「LGBT当事者の方々に特別な支援をしましょう」と捉えられているようにも感じています。理解や支援の方向性が、当事者が心から望んでいる方向へ進んでいないように思うことも多々あります。

日常このような経験をする一方で、私には一つの居場所がありました。

それは、福島市にある日本YWCA活動スペース「カーロふくしま」です。私はそこで小・中学生を対象にした学習支援の講師を務めていました。カーロに集う人々はいつも私を「だいちゃん」と温かく受け入れてくれ、そして訪れるみんなのことも温かく迎え入れています。ここに集う誰もが、性別や年齢といった枠組みに必要以上に捉われることなく、個と個のかかわりをもつことができます。そして、「男なんだから」「女なんだから」ではなく、「だいちゃんらしくね」と、個々のあり方を受け入れてくれます。このような場で過ごすことで、私はいつもホッとしていました。

共にありのままで 生きられる社会に向けて

これまで男性／女性の二元論を「当たり前」として生きてきた人の中には、多様な性を受け入れることが容易ではないと感じられる方もおられるかもしれません。私も、自分自身の考えを変えたり、新たな考え方を受け入れたりすることには困難さを感じます。また、これまで私が真剣に自分の性について話をした相手から「結局はどつちなのか?」と、言われてしまう経験も多々ありました。こうし

たすれ違いを避けるには、まず、相手とかわる際に「枠組み」というメカネを外して、個々の相手を見ることが大切なのではないでしょうか。

「男性」「女性」という概念を「当たり前」として、相手をどちらか一方の枠に当てはめようとするのではなく、まずは「男性」「女性」の枠組み、さらには「LGBT」という枠組みをも取り払い、相手のことを全人的に理解することが、なによりも大切だと感じています。支援についても「LGBTだから」という枠組みで考えるのではなく、一

人ひとりに焦点をあて「Aさんが必要としているから」「Bさんが困っているから」と個々のニーズに耳を傾けることが大切であると思います。そうした支援の根底には、「困ったときにはお互いに助け合う」という、共生社会の考え方があってはならないでしょうか。社会には、性別以外にも、障がい、国籍、年齢などさまざまな枠組みが存在しています。この枠組みが、制度や法律等において重要な役割を果たすことも、もちろんあります。しかし、繰り返しますが、過度な社会の枠組みによって相手を

隔てたり、その中に当てはめようとしたりする必要はないと思います。あらゆる人が、一人ひとりの特性を持つ人間であり、一つの枠組みに完全に納めきることはできません。お互いがお互いを尊重し合いながら、ありのままの存在を認め合っていける、共生社会を築きあげていけたらと、私は願います。そのためにも、「カーロふくしま」のような場は今後も継続してほしいですし、私自身も一人でも多くの方の居場所づくりに、今後も貢献をしていきます。

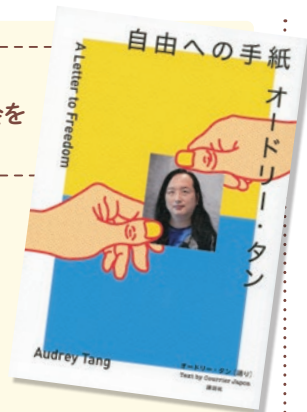
永瀬さんの推し本

ありのままを認め合う社会を考える1冊

『オードリー・タン 自由への手紙』

著：オードリー・タン（語り）、
クーリエ・ジャポン
編集チーム（構成）

発行：講談社 1,400円＋税



台湾史上最年少のIT担当大臣として注目を集めるオードリー・タンが、日本の若者に向けて語った「みんなが自由になる」ためのメッセージ。格差、ジェンダー、家族、国家、仕事などを例に、既存のルールや「当たり前」から自分が解放されるだけでなく、さらに他者も解放され、自由にすることが、目指すべき「本当の自由」という。そして、あらゆる人が自由になる社会へと変革するためには、安全な居場所（セーフ・スペース）が必要であると指摘する。ほかにもYWCAの取り組みに通じる提言が満載。

ここが推し

「『男と女』という二者択一から自由になる」自分が男なのか、女なのか、悩んでいた私にとって、どちらかではなくて、「自分」でいいんだ!と確信できる一文でした。オードリー・タンさんは、自身の自由に加え、自他共の自由を大切にされています。共生社会を築く上で、大切なヒントが込められたおススメの1冊です。



profile

永瀬大紀 [ながせ だいき]

茨城県生まれ。福島大学在学中、「にじいろサークル」を設立し、性にとらわれず誰もが過ごしやすい大学づくりを目指して活動する。日本YWCAの東日本大震災被災者支援の活動拠点「カーロふくしま」の学習支援「カーロでスタディ」で講師を務める。現在、筑波大学大学院障害科学学位プログラム在籍。多様な性の理解啓発や居場所づくりのほか、性にとられることなく、あらゆる人が尊重される社会を目指して、地域から活動を展開している。



ありのままで 自分のペースで過ごせるように!



若い世代が気軽に集える 居場所が必要だ

熊本YWCA会館の2階には、誰でも利用できるセーフ・スペースがあります。そこでは月に一回、土曜日に、LGBTQ……あらゆる性的マイノリティのユースの居場所「からふるペース」をオープン。当事者だけでなく「かもしれない」人も含めた10～30歳が集います。

熊本YWCAがこうした居場所事業に取り組んだきっかけは、熊本に当事者や「かもしれない」若い世代が気軽に集える場がないからです。用意された場はあっても、世代ギャップという壁にぶつかり、行くのを躊躇したり、諦めたりする人が多くいます。ユース世代は、自身の性について悩み始め葛藤し、苦しみ割合が多いとされています。実際に、これまで私が出会った人たちには共通して、学生の過程で悩み、苦しんだ経験がありました。また、卒業して就職先になじむまでの過程で、自身の悩みに職場での悩みが重なります。やりたい仕事に就いたとしても、差別や偏見によって辞めざるを得ない状況に陥る人たちがいる、悲しい現状もあるのです。

これらを顧慮し、対象年齢を10～30歳に限定し、ユースだけでストレス・フリーな時間を過ごせる居場所づくり



ゆったりと流れる時間のなかで、それぞれが思うままに過ごせる「からふるペース」



階下の「ぶれはぶcafé」でこだわりのランチを満喫してから参加する人も

を始めました。「その人自身が何にもとらわれることなく、ありのままの自分でいられるように。その人自身のペースで時間を過ごしてもらえるように」という思いを込め、「からふるペース」と名付け、2021年5月にオープンしました。

当事者との出会いが 人生を180度変えた

申し遅れました。私は、からふるペースの担当職員であり、トランスジェンダー男性の当事者でもある曽方晴希です。少しだけ私の事をお話しします。私が性への違和感を持ち始めたのは幼少期の頃。周囲から言われ続ける「女の子なんだから」という言葉が嫌で、「普通」「一般的ではない」自分がとても嫌でした。成長するにつれ悩みは増し、葛藤する日々を過ごしていました。親にも、友だちにも、誰にも話すことができなくて、本音を打ち明けることもできず引きこもりになり、自分自身を見失い、偽るようにもなり、人間不信にもなっていました。中学時代は「生きるより死んだ方がマシだ」と考えることが増え、刃物を持ち、血を流していたこともありました。そんなとき、同じセクシュアルの方との出会いがきっかけで「自分はこのままでいいんだ」と初めて感じられるようになり、人生を180度変える

ことができたのです。その後「生まれ育った熊本で、自分と同じように悩み、苦しむことがないように」という思いを胸に、熊本地震が起きた2016年、仲間たちと啓発活動を開始。学校現場を中心に、多くの人に声を届けるため講演活動をしています。当事者の存在が今以上に当たり前になる日まで、声をあげ続け、活動していきたいと思っています。

自分の人生、 自分のペースで!

さて、話を戻します。からふるペースは2年目の歩みを始めました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で居場所の重要性が増し、安心できる対面コミュニケーションが、これまで以上に求められています。一人でも多くの当事者がありのままでいられる居場所になるように、当事者同士の出会いの場になるように、活動を続けていきます。そのためにも、周囲の人たちの支えや協力が必要だと感じています。自分は自分、あなたはあなたです。自分の人生を、自分のペースで過ごせるように!

熊本YWCAからふるペース担当職員
曽方晴希



からふるペース

twitter.com/kumalgbtqsafe
毎月1回(土曜)13時～17時

ユースの声



みんなで創った パラレルイベント

CSW期間中の3月16日、6名のユースがパラレルイベント「日本からの気候と災害に関する若い女性の視点」を実施。顔合わせから準備、当日の発表まですべてオンラインで取り組みました。終了後に寄せられた感想から一部を紹介します。

◆私たちのイベントでは、日本の災害に対する脆弱性や、社会に根付く男女格差の背景を元に、東日本大震災からの11年間に女性の視点から振り返りました。また災害時に性的マイノリティが直面する問題や災害時のガイドラインの紹介と分析、そして社会を変革する女性のリーダーシップのあり方に至るまで、多様なコンテンツでプレゼンテーションを行いました。1ヶ月半の準備期間にメンバーの一人ひとりが調査を進め、深く考え、当日の参加者と一緒に創り上げたこのイベントが、みなさんが行動を起こす明日を照らすことを願っています。(名古屋YWCA N・M)

◆さまざまな国や地域の方々が、日本の現状に興味をもち、1時間半にわたって私たちの話を聞いてくださり、本当にうれしかったです。まずは知り、興味を持つことから。私も周りの人や国の問題に関心を持ち続けられる自分でありたいです。(東京YWCA M・S)

◆準備に手こずったり、社会人のメンバーの文章力の高さやプレゼン力に驚かされたり、たくさんの学びを得られました。個人的にメンバーの一人の行動力は素晴らしいと思いました。年齢が近いにもかかわらず、なんだか自分との大きな差を実感し、私自身も誠実さと行動力を身につけたいと強く思いました。

(東京YWCA R・N)

f メンバーの感想を公開!

<https://www.facebook.com/YWCAJapan/posts/4828693820532157>



国連女性の地位委員会(CSW)とYWCAの深い関係

知っていますか?



第63回CSWに派遣されたユースメンバー (2019年)

毎年、YWCAは「国連女性の地位委員会(CSW)」に、複数のユースを派遣しています。CSWは日本を含む45カ国の政府代表からなり、政治、経済、市民、社会、教育分野における女性のさまざまな課題を審議し、国連経済社会理事会(ECOSOC)に提言しています。毎年3月にニューヨークの国連本部で年次会合が開催され、期間中は本会議と並行して各国政府・国連機関主催のサイドイベントやNGO主催のパラレルイベントも多数開かれます。

CSWとYWCAの関係には長い歴史があります。世界YWCAは国際連盟の時代からNGO・市民社会として国際機関と協力し、1946年のCSW設立に大きく貢献しました。毎年代表団を派遣し、アドボカシー活動やイベントの実施、ロビイングなどを積極的に行っています。日本YWCAは最初、世界YWCAの代表団の一員としてCSWに参加していましたが、2019年にECOSOCと協議する資格を取得したことにより、単独でCSWへの参加や書面・口頭での発言などが可能になりました。

2022年3月14日～25日、第66回CSWが対面とオンラインで開催されました。優先テーマは「気候変動と環境・災害リスク削減に関する政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成」。これに沿って日本YWCAは昨年10月にステートメントを提出し、気候変動に関わる取り組みへの若い女性の声の反映と、原子力発電を使わない脱炭素政策に関して、各国政府や国連に対する要望を表明しました。また、ユースがチームを結成し、オンラインによるパラレルイベントを実施。企画立案から準備、当日の発表までを担当しました。

今総会期、日本YWCAは若い女性のエンパワーメントをミッションに掲げています。CSWへの参加はユースにリーダーシップを発揮する機会を提供するとともに、YWCA運動への入り口にもなっているのです。

編集部会

日本YWCAの戦争・紛争被害者支援募金

日本にいる私たちにできること

日本YWCAは、海外のYWCAや関係団体と連携し、
災害・紛争時の緊急支援や中長期支援を行っています。
現在、皆さまのご寄付を下記の関係団体へとお届けしています。
どうぞご協力をお願いいたします。



◆ウクライナ女性の声

戦争が続き、死と破壊をもたらしています。しかし、生命は続いています。ウクライナの女性たちは、砲撃の中、サイレンの音の中、地下室、防空壕の中で子どもを産むことを余儀なくされています。その一人、ビクトリアはキーウで男の子を出産しました。「私はただ一つ、すべてがうまくいくこと、子どもを産んでその子が幸せになることだけを考えていました。ただ赤ちゃんに会うことだけを夢見て、それ以外は何も望みませんでした」（ウクライナYWCA Facebookより）

🌻 ウクライナ支援募金

ウクライナから日本へ
避難する人々を支援

日本YMCA同盟は、ヨーロッパYMCA同盟、ウクライナYMCAと連携し、ウクライナからの避難支援を継続しています。また、受入れ支援と同時に、日本での就労や教育などの生活基盤やコミュニティ形成をサポート。持病や障がい、経済的困難、保育や教育など一人ひとり異なるニーズに応えるため、他団体とも協働しながら対応を続けています。日本YWCAは、日本YMCA同盟の活動に賛同しています。

募金の使途

●ウクライナから日本への避難者支援。近隣諸国への移動、ビザの申請、出国、渡航チケットの手配・費用の支援、来日後もきめ細かなサポートを続けるために。

●ウクライナおよび近隣諸国のYMCAによる現地での支援のために。宿泊場所、食品、衣類、医薬品、衛生製品などの提供。心理的、社会的な緊急サポートなど。

詳細

日本YMCA同盟

<https://srv.asp-bridge.net/ymca/privacy/7>

生活の再建など現地の女性や
子どもを支援

戦争は後々まで女性や少女に暴力をもたらします。性的暴行、虐待、貧困の拡大、医療や教育インフラへのアクセスも困難になります。YWCA世界奉仕協議会は、ウクライナの戦争状態が終結し、マスコミによる露出が減り、緊急救援の支援団体が撤退した後にこそ必要な中長期支援のための募金を立ち上げました。



募金の使途

ウクライナYWCAが活動を再開し、地域の女性や子どもたちのケア、生活再建の手段を確保するなど、現場のニーズに速やかに応えるための資金として。また、周辺国に逃れた難民の人々への支援のために。

※現在ウクライナYWCAは活動休止を余儀なくされていますが、SNSで女性たちの声を発信しています。

詳細

YWCA世界奉仕協議会

<https://www.ywcaworldservicecouncil.org/>

🌿 パレスチナ支援募金

軍事占領下の難民キャンプで暮らす
子どもを支援

1948年、シオニストの軍事組織による破壊・占領により、不当に土地を奪われ、数十万人が難民となったパレスチナ。今もなおイスラエルの軍事占領下にあり、難民キャンプでも、パレスチナの人々は生命と心身の危機にあります。パレスチナYWCAは、ヨルダン川西岸地区の難民キャンプ内で幼稚園を運営し、子どもたちの健全な成長を支えています。しかし、長引くコロナ禍による経済状況の悪化で存続の危機にひんしています。

募金の使途

ジェリコ県とラマラ県の難民キャンプにある二つの幼稚園（百数十人収容）の運営のために。幼児期のケアと教育、エンパワメント、生きていくために大切な土台形成など、一人ひとりを全人的にサポートするため。また、子どもの家族の差し迫ったニーズにも対応するため。

募金関連イベント報告

パレスチナとオンラインでつなぎ、現在の状況と難民キャンプ内の幼稚園の声を共有しました。
<https://www.facebook.com/YWCAJapan/posts/4949447615123443>

ご寄付の振込先

郵便振替 00170-7-23723 加入者名 公益財団法人日本YWCA

※通信欄に「ウクライナ支援募金」「パレスチナ支援募金」いずれかをお書きください。

エンパワーするNGO



2021年度 寄付報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

活動へのご賛同、
ありがとうございます。

●日本YWCA賛助費	1,595,000円
●ピースメーカーズ募金	3,878,169円
(うち、次世代育成資金).....1,033,776円)	
●東日本大震災被災者支援募金	2,283,005円
(うち、カー口ふくしまサポーター.....619,000円)	
●災害時支援募金	1,731,430円
(パレスチナYWCA支援、トンガ支援、ウクライナ支援含む)	
●オリーブの木キャンペーン募金	868,000円
●ガザの子どもプログラム支援募金	1,261,500円

【 2022年度もよろしくお願いいたします 】

※当法人へのご寄付は、税額控除の対象となります。

※メールまたは振替用紙通信欄で次の情報をお知らせください。領収書を発行します。

①振込日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤寄付項目

⑥お名前のアルファベット(オリーブの木キャンペーンへのご寄付のみ)

※ご希望の寄付項目を必ずご指定ください。※年間3,000円以上のご寄付で、機関紙を発送いたします。

●銀行への振込

振込先	三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743 (口座名義) 公益財団法人日本YWCA コウエキザイダンホウジンニホンワイドブリュシーエー
郵便振替	00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA
他行からの振込	ゆうちょ銀行 ○一九支店 (ゼロイチキュー) 当座預金 23723 (口座名義) 公益財団法人日本YWCA ザイ) ニホンワイドブリュシーエー

『マンガでわかる
LGBTQ+』

発行：講談社
著：パレットーク
イラスト：ケイカ
1,300円＋税



「『知らなかった』を言い訳にして、誰かを傷つける時代を終わらせよう」本書の帯に書かれたコピーだ。パレットークは、さまざまなセクシュアリティやジェンダーについて、当事者の実体験をマンガで発信するウェブメディア。本書でもリアルな声をマンガで分かりやすく紹介している。人物の表情から、言葉にならない複雑な感情がスツと入ってくるようだ。また、踏み込んだ情報もあり、自分の問題として考え、自分を見直すきっかけにもなる一冊。

ご協力ありがとうございました

賛助費

石渡能子 磯村美保子 市川恵美
植田温子 近藤真由美 鶴崎祥子
永吉敬子 藤井初子 牧甫

ピースメーカーズ募金
(平和を創り出す女性のリーダー
シップ養成)

伊東瑠子 江崎啓子 佐々木悦子
佐藤マリ子 武内富貴代
鶴崎祥子 藤井初子 松本恒雄

日本キリスト教団亀戸教会
日本基督教団代々木上原教会
日本基督教団経井沢追分教会

東洋英和女学院中・高部宗教委員会
横浜共立学園中学校・高等学校
女子学院高等学校・中学校

公益財団法人名古屋YWCA
公益財団法人名古屋YWCA

災害時支援募金
(オリーブの木キャンペーン募金)

高橋菜々子 鶴崎祥子
藤井初子 村上千代子
日本基督教団代々木上原教会
一般財団法人函館YWCA

(国内外の災害被災者支援)
磯村美保子 嘉屋陽子
金剛静慧 鶴崎祥子

日本基督教団市川三本松教会
名古屋市立名東高等学校生徒会
学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会

一般財団法人函館YWCA
公益財団法人福岡YWCA

(ウクライナ支援)
浅尾治子 荒川彩美 五十畑誠子
磯村美保子 伊藤邦子 岩城紀代子
臼田治子 内山佳子 遠藤洋子
オオガヤコ 太田ゆかり

大塚優子 織田光恵 河野弘美
小宮一子 金剛静慧 近藤真由美
佐藤ゆみ子 柴田智子 高橋敬子
高橋りえ子 田中晴子 鶴崎祥子
手島千景 寺澤栄一 長田いづみ
中野キミ子 中村真知 中村ゆり
西田悦子 野崎美子 藤村幸子

前田晶子 松本幸子 実生律子
宮治陽子 宮田由紀 ムロタコウコ
山本三枝子 山本美佐子
八木高子 山川郷実 吉田亜希
ガーデンカフェ
市民活動フェア実行委員会
フェリス女学院中学校・高等学校
釧路YWCA
公益財団法人東京YWCA
湘南YWCA
匿名

東日本大震災被災者支援募金
内山佳子 柏木牧子 嘉屋陽子
鶴崎祥子 藤井初子 吉岡真紀子
吉野かおり
横浜共立学園中学校・高等学校
学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会

(カーソサポーターズ)
會津昭代 赤川恵子 赤澤ヒロ子
石山千賀子 糸洲のぶ子
稲葉和寿子 岩城紀代子
江崎啓子 遠藤眞理 大野綾子
貝塚典子 片山淳子 鬼頭裕子
清塚典子 黒沼由利子 小宮一子
金剛静慧 近藤恭子 齋藤知子
雀部真理 佐藤恵津子 島崎真奈美
清水幸江 高橋昌子 谷合公江
俵恭子 千葉仁子 辻川さとし
津戸眞弓 鶴崎祥子 手島千景
中島睦 中村紀子 中山美津江
西田悦子 西本玲子 根本泉
野崎美子 野田雅子 芳賀美江
橋本智香子 花盛静子 半澤敦子
東平瑞江 久宗百合子 藤谷佐斗子
藤原玲子 松村真理子 松本光子
丸山泉 實生律子 宮治陽子
篠田茜 山本千鶴 横川宏美
吉田亜希 吉田曉美 吉田夏子
メリー・フォー・コンサート
公益財団法人名古屋YWCA

(2022年2月16日～4月15日
称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | にお名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan